

大明倫会開会挨拶

平成29年2月3日（金）

本日は、大明倫会に参加いただきありがとうございます。明倫教育に関わる者が1年に1度集うのがこの大明倫会です。幹事団を代表して挨拶をさせていただきます。

「地震、雷、火事、〇〇」という言葉もありますが、昨年の鳥取中部地震、今年1月下旬の大雪、ここ1・2年中部地区で発生している火災と災害はどこにも起こるといふこと、災害への対応を常におこななければならないものだと実感しています。

鳥取中部地震発生時の明倫小学校の近況等は校長先生よりあるでしょうから、校長先生にお願いし、私の方は明倫教育・大明倫会に関係したことを少しお話させていただきます。

鍛冶町児童遊園地に「明倫教育発祥の地」という石碑があります。

大明倫会は今回が54回ですが、明倫小学校の歴史はその2倍の107年となります。明治42年、成徳小学校から分離して「明倫尋常小学校」ができました。校名は、当時の成徳小学校長奥野氏が、小学(中国、宋代の修身、作法書)の明倫編の明倫から取っています。

開校から100年を超え、校地・校舎も変わりました。大きく3つに分けると

①落語家、桂枝雀の「代書屋」にもでてくる、桜の大きな木が5本校門の前に咲いていた木造校舎の時代

②昭和30年、ベビーブームによる児童数の増(全校で1300名ほど)に対応するために建てられた現在では日本最古となった円形校舎の時代

③昭和50年、旧西高の跡地に移ってきた現在の校舎の時代となります。

明倫教育の精神、学習、運動、音楽で市外・県外にも名をはせ、教科書祭、五倫の森等独特の教育活動を展開している明倫教育は脈々と続いています。

また、忘れてならないのは明倫教育を支えて下さった地域や保護者の存在です。

10年ほど前、「せかいいちうつくしいぼくの村」を書かれた絵本作家の小林豊さんが、国語の研究会(中国大会)で来られました。鳥取空港までお送りした車内で次のような話をされました。「倉吉はとってもいいまちですね。特に、鍛冶町の呂路を入ったような所の町が特に好きです。」

また、中心市街地活性化事業として小川家、小川家庭園、管楯彦(初代名誉市民)が疎開していた離れ等があり整備できればすばらしいものです。また、ヒシ倉醤油、万国泉、鉢屋川等の倉吉らしいものもあります。

そして、そこに住んで、明倫小学校を応援、支えていただける地域・保護者の皆さんがおられます。

本日は限られた時間ではありますが、「明倫」を通して様々な話題の花が咲き有意義な会となることを祈念しています。開会に当たり、幹事からの挨拶とさせていただきます。